

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000835		
法人名	NPO法人すばる		
事業所名	グループホームすみれ		
所在地	北見市留辺蘂町花丘22番地31		
自己評価作成日	平成22年7月10日	評価結果市町村受理日	平成22年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://hokkaido.in/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=0175000835&amp;SCD=0175000835">http://hokkaido.in/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=0175000835&amp;SCD=0175000835</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成22年7月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温根湯温泉市街地より山側に位置し、緑豊かな自然に囲まれています。建物の南側には大きな窓があり、今は明るくスペースもゆったりとくつろげる雰囲気になっています。畑でとれた野菜や山菜は、利用者の食卓に用意し、行事等の手作りケーキや料理は食欲増進のリハビリとなります。私達は、利用者の残された能力を最大限に生かし、生きがいのある生活に繋げ、毎日を楽しく明るく過ごせるようお互いを支えあい生活しています。理念は『長い人生の主役です。自分らしくゆっくりとのんびりと』と掲げており、常に自分に置き換え、確認し、ケアサービスを実施しています。利用者が自分らしく穏やかに過ごせるホームを目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温根湯温泉街の山側に位置した当事業所は田園地帯の緑豊かな静かな環境に立地しています。近くには町の花畑(根々の丘)が整備されており、利用者の散歩コースになっています。敷地内には畑や事業所の名前にちなんだすみれの花が植えられ、自然とのふれあいが日常的に行われています。建物は光がよく採り入れられゆったりとした雰囲気を醸し出しています。理念に掲げている「自分らしさ」を実践するため、職員は常に自分を利用者へ置き換え利用者の思いに添った介護の徹底を図っています。職員の入れ替わりもあり、職員の柔軟な発想(チェック表・目安箱等)の思いを形にする行動力がグループホームすみれに新しい風をおこしています。“すみれ”には力強く、根強きの思いが込められており、利用者がゆっくり過ごせる場所になるよう、又、地域の人々がここに住んでみたいと思えるホームとなるよう日々取り組む姿勢が伺えます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各理念は職員は職員理解しており、理念において、目的意思をもって関わる方向を毎朝ミーティングで話し実践につなげている。	「自分らしく ゆっくり のんびりと」を理念に掲げ、職員はミーティングの中で気付き等を話し合い、共有し利用者の身になったケアを実践しています。新人職員については理念を話し合う機会がもてていません。	理念を具体化するためには新人職員を含めあらゆる機会を設け話し合い、色々な事を共有し、浸透を図ると共に重要事項説明書に明文化している権利擁護と倫理についても活用されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昔ながら行きつけの理容院やスーパーへ日常的に利用し交流している。町内会へは加入していない状況である。	日々の外出時に地域住民との挨拶や会話を通じ、交流を深め、地域行事に出掛けたり事業所行事に地域住民の参加やボランティアの受け入れも行われています。運営推進会議を有効に活用し、地域に溶け込もうとしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営委員会を通して、地域の方にホームの特徴や、利用者の状況を説明し理解を広げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回会議を開き、ホームの状況や、地域の方達の要望やアドバイスを頂きサービス向上に活かしている。	会議は2ヶ月に1度開催し、事業所の状況報告・相談等について意見交換するほか、行事にメンバーがボランティアとして参加するなど、地域との交流促進等に役立てると共に理解を得る機会とし、サービスの質の向上に繋げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会などを通して、情報交換し協力関係を築いている。	認定更新時、運営推進会議等を行う中で行政とは常に連携を深め、協力関係を築いています。市主催の認知症サポーター養成講座を通して地域住民の認知症への理解も広がってきています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で身体拘束について話し合いをしており、ベッド柵もできるだけしないよう、布団に鈴をつけ、動きに気づけるよう配慮している。	重要事項説明書に明文化されている利用者の権利に身体拘束を受けない権利が記載されているほか、身体拘束廃止について内部研修を実施し、職員の共有認識を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自分達に置き換えて介護に取り組む様話し合っているが、内部研修では話し合いの回数が乏しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフが入れ替わり、内部研修ではまだ取り上げていない状況であり、学ぶ機会が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時、利用者や家族に十分説明し理解納得を得て行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の住まいであることを十分に理解し、その都度、意見や不満はないか、協力し合い運営に反映できるよう努めている。玄関内入り口に意見箱を設置している。	意見箱を設置していますが実際の利用はなく、家族の訪問時や電話の際、ケアプラン作成時を大切な機会と捉え、何でも言って貰える関係作りに努めています。契約時に外部・内部の相談窓口を説明し、玄関にポスターを掲示しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	口頭や文面で提案できるような環境を作っている。	管理者はミーティングやケア会議を通して職員の意見を聞く機会とすると共に事務所に目安箱を設置し、職員が意見や提案を気兼ねなく言える関係を築いています。出た意見・アイデア等を運営やサービスの質の向上に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持ち働けるよう、職場環境、条件の整備に努めている。意見箱を設置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修が満足に参加できておらず、積極的に他の施設の職員と学び、交流できる機会をつくる必要がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	5月に外部からの実習受け入れがあり、同業者との交流につながってきている。この機会に勉強会やなどで親睦を深めていけるような取り組みをしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安なことや要望等には耳を傾け、ケアプランに反映させ職員は全員が共有し、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、不安や要望等はケアプランに反映させ、耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	朝のミーティングや会議で、必要としている支援を話し合い、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に、食事の後片付けやレクリエーションなど、お互いに頼りあい、楽しみながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には、スタッフ一人一人が最近の様子を伝えることができ、絆を大切に、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのスーパーや美容院など、今まで通り通えるよう支援している。馴染みの人に会える環境を作るよう努めている。	今まで通っていた理美容院やスーパーへ買い物に出掛けたり、友人が会いに来てくれるなど馴染みの関係が継続できるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の会話等に気を配り、利用者同士が支えあえるよう、職員が間に入り孤立することが無いよう、支援を努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて来訪や、相談できるような関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや、暮らしの希望、意向の把握に努め、話し合いをしている。困難な場合は本人本位に検討している。	職員は利用者の生活歴を把握した上で、日常生活の中から一人ひとりの思いや意向の把握に努めると共に、ミーティング時や定期的なアセスメントを通し理解を深めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴をまとめたもの用意しており、職員全員が把握できるようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個人記録があり、現状を把握できるよう、毎日申し送りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に会議を開き、モニタリングし現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントを含めミーティング時やケア会議の中でモニタリングを行い、家族の意向をとり入れ介護計画を作成しています。職員は利用者一人ひとりの支援内容チェック表を活用し、ケアプランに連動したケアの具体化を図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは個人記録に記載し、毎日の介護実践の見直しはできるよう朝のみーティングで話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応ができるよう常にニーズは共有しており、サービスの多様な化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、柔軟な外出や、安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に馴染みの医師が往診にきており、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医の支援を行っています。受診時には職員も同行し説明に努め、家族と情報を共有しています。かかりつけ医の往診や、訪問看護師による健康管理も行われ、適切な医療を受けられる様配慮されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護を受けており、柔軟に相談し適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	24時間対応できる医療機関とつながっており、常に情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、本人、家族と関係者と話し合い、事業所でできることを十分に説明し、チームで支援に取り組んでいる。	重度化及び終末期における対応の指針を作成し、入居時に説明されています。ターミナルケアの希望があった場合は家族、医療機関と話し合いを重ね、連携体制を整えながら取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その都度ミーティングでの話し合いとマニュアルを作成しているが、定期的な訓練は乏しく、実践力を身につけていくため必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	で繰り返し避難方法を検討していく必要がある。地域との協力体制は連絡網等で整備されている。	年2回の避難訓練を実施しています。昨年、夜間想定での避難訓練を実施した際に地域住民の協力の必要性を実感し、地域に協力を呼びかけ、地域住民を含めた連絡網を作成しています。職員の救命救急の講習会の実施も予定しています	地域住民に協力を呼びかけていますが、今後更に地域住民の役割体制の構築や避難場所の確保等、きめ細かな避難対策の検討を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格、誇りを尊重し言葉かけや対応をたいせつにしている。	管理者、職員は常に利用者の立場に立ったケアサービスを心掛け、一人ひとりの尊厳を尊重するよう努めています。排泄パット等、プライバシーに関わる物や個人記録の取り扱いにも注意が払われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の目線に立ち、どんな希望があり、生活を望んでいるのか、納得しながら暮らせるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が、以前の生活と大きな変化がないように、対応して行くために、本人の希望を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人にあつた身だしなみ、手助けや助言、理容・美容室は本人の行きつけのお店に通っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に、食事の準備や片付けをしている。	職員と共に準備や後片付けを行っています。糖尿病食をアレンジし利用者の嗜好やバランスに配慮した献立を作成し、畑の野菜や山菜等季節感を取り入れ食事が楽しくなる様心掛けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量を把握し記録に残しており、十分確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握しており、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チエク表を元に、一人ひとりのパターンを良く知り失敗や、おむつの使用を減らし気持ち良く生活できるように支援している	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンを把握しプライバシーに配慮したさりげない声かけを行い支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チエク表を元に、一人ひとりのパターンを良く知り、食事の工夫や、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では、日中に入浴時間を設けており、利用者の方も納得している。	利用者の希望や体調を考慮しながら週に2回は入浴出来る様に取り組むと共に、利用者の状況に合わせて柔軟に対応する様に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるように支援している。 (昼夜逆転しないよう配慮している)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋がすぐ確認できる場所の保管しており、一人ひとりが用法や用量について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援できている利用者と柔軟に出来ない利用者に分かれている。検討が必要である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別にあるいは、利用者と家族がともに出かけられるように支援している。	日常的に散歩や買い物に出掛けています。季節毎に花見や、ドライブ等に出掛けたり、地域の協力を得て温泉に行く等、外出支援を通し楽しく活力ある生活が送れる様取り組んでいます。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と本人の話により、その人に応じてお金を所持したり、使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、家族、友人に本人から電話をしたり、受けたりできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、利用者が穏やかに安心して生活できるように、写真や作品を貼り、居間では金魚を飼っている。	事業所内は広々と明るく開放感のある作りとなっており、ソファの配置もゆったり過ごせる様配慮されています。座布団が置いてあったり、金魚を飼っていたりと家庭的で、和やかな生活空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では、3人掛けソファやリクライニングソファを置き、横になったり、食堂ではお茶を飲み過ごせる空間など、ゆったり過ごせるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れた物を生かし、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。	居室は十分な収納スペースが備え付けられています。利用者は馴染みの物や好みの物を持ち込み、自分の家として居心地良く過ごしている様子が伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの納得できる力を活かして、混乱や失敗のないよう、自立して暮らせるように、部屋には表札を掛け、トイレなどすぐ分かるように目印をつけている。		